

## 注意事項：

- ①火気厳禁－引火性です。
- ②有害性が有ります。取り扱い前に、製品ラベルの注意事項および、安全データシート（SDS）をお読みください。
- ③朝夕の結露の時期、被塗物が異常に高温の時、降雪雨が予想される時は、塗装を避けてください。
- ④コロベストは2液反応型塗料です。開栓後なるべく早く使い切ってください。
- ⑤コロベストの可使時間は20℃雰囲気下で約5時間です。適量を調合し、可使時間内に使いきってください。
- ⑥高温多湿の環境下では、保存期間や、可使時間が短くなります。
- ⑦使用前に塗料が均一になるまで攪拌してください。
- ⑧主剤と硬化剤は、計量混合後に、直ちに均一になるまで攪拌してください。
- ⑨有機溶剤を含みます。蒸気を吸わないようにしてください。
- ⑩使用の際は、皮膚に触れないように保護具を着用してください。
- ⑪使用後は手洗い、うがいを行ってください。
- ⑫密閉して冷暗所で保管してください。
- ⑬廃棄は、産業処理業者に委託してください。

## ® オリエンタル塗料工業株式会社

### 本社・工場

住所 大阪市平野区加美北4丁目5番38号  
電話 06-6791-4031 FAX 06-6791-4034  
ホームページ : <http://www.oriental-toryo.jp>  
メールアドレス : [oriental@jeans.ocn.ne.jp](mailto:oriental@jeans.ocn.ne.jp)

取扱店

2016.02

薄型化粧スレート、プレスセメント瓦 専用塗料

コロニアルやカラーベストの塗り替えに最適

# コロベスト

弱溶剤タイプ 2液型シリコン塗料

コロベストは基材への密着力に優れており、下地剤なしでの塗装が可能です！

下地剤なしでも、屋根用の上塗り塗料としての性能を発揮します。

\*素地の状態によっては、吸込みを抑制する下地剤を合わせての仕様が推奨します。

## 対象基材：

- ①薄型化粧スレート (代表基材：コロニアル、カラーベスト)
- ②プレスセメント瓦
- ③鋼板屋根 (下地にサビ止め「オリトボウセイ」の施工が必要)
- ④波形スレート (新設は除く)
- ⑤特殊高分子繊維強化セメント (ブルック・イオルーフ)

\*上記以外の基材は、別途、適切な塗料をご選択ください。  
陶器瓦、いぶし瓦、モニエル瓦などにコロベストは使用できません。

**塗装方法：** 刷毛・ローラー、吹き付け (エアレスガン)

**混合比：** 主剤+硬化剤 = 5 + 1 (重量比)

**可使時間：** 5時間 (20℃雰囲気下) 高温多湿では短くなります。

**色数：** 37色 (内シルバー4色) コロベストの標準色見本をご確認ください。

## 荷姿：

	荷姿	主剤	硬化剤
コロベスト 標準 各色	15 kgセット	12.5 kg	2.5 kg
コロベスト 吸込み止めプライマー	15 kgセット	12.5 kg	2.5 kg
ORマイルドシンナー	16 L	-	-
オリトベース (水性1液プライマー)	9 kg	-	-
ハイブリットプライマー (水性1液プライマー)	15 kg	-	-
オリトボウセイ (弱溶エポキシ1液錆止め)	14 kg	-	-
タフグロスコート (弱溶2液クリヤー)	14 kgセット	12 kg	2 kg

® オリエンタル塗料工業株式会社

## 塗料の特徴：

- \* 弱溶剤のため、旧塗膜を選ばずに塗装できます。  
(フッ素塗料や、基材に密着しない塗膜、弱溶剤で溶解する塗膜へは塗装できません。)
- \* 作業性に優れています。(塗装間隔は3時間以上で、翌日にも塗り重ねが可能です。)
- \* 下地剤なしで基材に密着するので、下地剤(透明なシーラー)の塗り忘れなどによる剥離の危険性はありません。
- \* 下地剤の塗装工程を省けるので、工事日数が短縮できます。
- \* 素地調整(吸込み止め)用の下地剤や、耐候性を長持ちさせるトップコート(クリアー)との多彩な組み合わせが選択できます。

## 塗装仕様：

- I) コロベスト直接2回塗装 ※1 塗装2工程  
塗装工程の1→3→4 ※3
- II) コロベスト直接2回塗装+タフグロスコート仕上げ塗装 塗装3工程 **超耐候仕様**  
塗装工程の1→3→4→5
- III) 下地塗装+コロベスト2回塗装 塗装3工程  
塗装工程の1→2(下地剤のA・B・C・Dから選定)→3→4
- IV) 下地塗装+コロベスト2回塗装+タフグロスコート仕上げ塗装 塗装4工程 **超耐候仕様**  
塗装工程の1→2(下地剤のA・B・C・Dから選定)→3→4→5

※ 金属系の場合、III) または IV) の塗装仕様で下地剤Dをご使用ください。

塗装工程	材料	希釈	塗装面積	塗装間隔
1	下地処理	浮いている旧塗膜、苔やカビをケレン除去する。 高圧洗浄(8~10MPa)し、十分に乾燥させる。		晴天2~3日
2	下地剤 A	吸込み止め プライマー	ハケ・ローラー : 10~15% エアレス : 20~30% /15kgセット	80~110m <sup>2</sup> 3時間以上
	下地剤 B	オリトベース	ハケ・ローラー : 0~15%(水) *吹き付け塗装不可 /9kg	40~50m <sup>2</sup> 24時間以上 (20℃) ※2
	下地剤 C	ハイブリット プライマー	ハケ・ローラー : 0~5%(水) エアレス : 0~5% /15kg	40~50m <sup>2</sup> 24時間以上 (20℃) ※2
	下地剤 D	オリトボウセイ	ハケ・ローラー : 5~10% エアレス : 10~15% /14kg	100~116m <sup>2</sup> 4時間以上 7日以内
3	上塗り	コロベスト 各色	ハケ・ローラー : 10~15% エアレス : 20~30% /15kgセット	100~130m <sup>2</sup> 3時間以上 ※3
4	上塗り	コロベスト 各色	ハケ・ローラー : 0~10% エアレス : 10~20% /15kgセット	100~130m <sup>2</sup> 3時間以上 ※3
5	トップコート	タフグロスコート	ハケ・ローラー : 0~10% エアレス : 5~15% /14kgセット	85~125m <sup>2</sup> -

\* 各商品の詳細は、個別のカatalogをご参照ください。

※1 コロベストの3回目の塗装は4の工程を繰り返してください。

※2 冬期は48時間以上。塗装から24時間以内に気温が5℃以下になる場合は塗装不可。

※3 弱溶剤塗料は、当日の3回塗り不可。低温や日陰の場合は、乾燥が遅くなる事があります。

## 塗料の準備：

1) 基材の種類を確認する。 →下地剤の選定に必要です。

### ①薄型化粧スレート



下地剤 A = 吸込み止めプライマー、または  
下地剤 B = オリトベース  
をご使用ください。 \*縁切りが必要です。

### ②プレスセメント瓦



下地剤 A = 吸込み止めプライマー、または  
下地剤 C = ハイブリットプライマー  
をご使用ください。

### ③鋼板屋根



下地剤 D = オリトボウセイ  
を必ずご使用ください。

### ④波形スレート

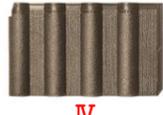


下地剤 A = 吸込み止めプライマー、または  
下地剤 B = オリトベース  
をご使用ください。

※新設のノンアスベストタイプには塗装出来ません。

### ⑤特殊高分子強化繊維セメン

ブルック or イオルーフ



下地剤 A = 吸込み止めプライマー  
をご使用ください。

2) 基材の劣化具合を判断する。 →塗装仕様を選定してください。

①初めての塗り替えで、色があせている程度。

もしくは過去に塗り替えしており、艶や色が引けている状態。

塗装仕様 I) コロベストを直接2回塗装

塗装仕様 II) コロベストを直接2塗装+タフグロスコート仕上げ塗装 **超耐候仕様**

\* 旧塗膜の種類や状態によっては、塗り替えが出来ない場合があります。

②塗膜が摩耗して無くなり、全面に素地が見えている状態。

塗装仕様 III) 下地塗装+コロベストを2回塗装

塗装仕様 IV) 下地塗装+コロベストを2塗装+タフグロスコート仕上げ塗装 **超耐候仕様**

\* 塗装には下地処理の洗浄が必要です。洗浄で表面塗膜が無くなった場合は、洗浄後の状態から下地剤を選択してください。

\* 基材が割れるほど劣化している場合は、塗り替えでは補修できません。

\* 金属部分に塗装の場合は、錆止めをご使用ください。

\* 塗布量、膜厚が不足した場合は、性能が低下します。塗装面積を守ってご使用ください。